

■ 県市における検討状況の整理について

【県庁舎跡地の県市にとっての重要性】(ベース)

○現庁舎の敷地は、史跡「出島」に隣接し、陸の玄関口の長崎駅や海の玄関口の松が枝国際観光船ふ頭等と中心部の商店街等をつなぐ、まちなかの重要な回遊ルートにあることから、まちづくりの観点で大変重要な位置にあり、また歴史的、文化的にも貴重な土地である。

【県庁舎跡地活用に関する県市の基本的な取り組み方針】

○現庁舎の敷地が、今後も長崎の中心・象徴でありつづけるため、この地に脈々と刻まれた歴史にさらに磨きをかけて活用し、交流、創造、発信につなげる。

○現庁舎の敷地が、新たなまちづくりの起爆剤として、人々が集い・交流し、今以上にぎわいを創出するよう、また、長崎市のみならず、長崎県全体にとって最もよい活用方策となるよう取り組む。

主要機能	検討中の具体的機能	主な内容	着眼点(重要項目)から見た期待される効果					その他
			公益性	集客性・交流性	象徴性・発信性	歴史性	周辺にある機能との関係	
☆多目的広場機能		<ul style="list-style-type: none"> 一定以上の面積の確保(公会堂前公園以上) 多彩なイベントが行える仕組み(屋根付き広場、電気・給水施設など) 利用の自由度が高い運用 	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが利用でき公益性は確保される 	<ul style="list-style-type: none"> イベント等により県民・市民の利用が一定見込める(約10万人~20万人/年(FS調査)) 	<ul style="list-style-type: none"> 規模やデザイン、活用方法(イベント等)を工夫することにより可能 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史性を取り入れたデザイン(外観)、活用方法(イベント等)により可能 	<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地に近い立地を活かす等、ソフト面や設備面の工夫により水辺の森公園、おくんち広場等との棲み分けが可能 浜町を含むエリアに重複するものはなく、機能分担は可能 	<ul style="list-style-type: none"> 都市再生の課題 県民・市民からの要望、意見など 検討懇話会:多彩なイベントによる交流・賑わいの創出、県民・市民の憩いの場の提供 江戸町公園との調整 将来へ向けた拡張性を確保する場
☆歴史・情報発信機能	世界遺産関連	<ul style="list-style-type: none"> 県内の構成資産の紹介 	<ul style="list-style-type: none"> 世界遺産を中心に広く長崎の魅力を発信できる 	<ul style="list-style-type: none"> 施設内容による(約1.8万人~14.5万人/年(FS調査)) 	<ul style="list-style-type: none"> 世界遺産に関する関心は高い 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的背景によく適合する 	<ul style="list-style-type: none"> 周辺に類似機能なし 	<ul style="list-style-type: none"> 検討懇話会:国内外の来訪者等に展示解説
	出島関連	<ul style="list-style-type: none"> 出島に関する情報発信 出土品や出島に関する資料の展示 	<ul style="list-style-type: none"> 出島を中心に広く長崎の魅力を発信できる 	<ul style="list-style-type: none"> 出島と一体的な運用により集客性は高い(約43.9万人/年(25年度出島実績)) 	<ul style="list-style-type: none"> 「出島」は国内外に知名度が高い 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的背景によく適合する 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史文化博物館との機能分担が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 検討懇話会:国内外の来訪者等に展示解説
	この土地の歴史関連	<ul style="list-style-type: none"> 長崎発祥から県庁までのこの土地の歴史の紹介 	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが利用でき公益性は確保される 		<ul style="list-style-type: none"> この土地の歴史を発信することで象徴性・発信性の確保は可能 	<ul style="list-style-type: none"> この場所の歴史的背景によく適合する 	<ul style="list-style-type: none"> この土地に特有のものである 	<ul style="list-style-type: none"> 検討懇話会:出島との関連をはじめとしたこの地の歴史等を展示解説
	国際交流・県民交流拠点	<ul style="list-style-type: none"> 国際交流・県民交流のための会議室、交流スペース等 	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが利用でき公益性は確保される 	<ul style="list-style-type: none"> 平日等、ホールや広場でイベントが無いときも県民・市民の利用が一定見込める 	<ul style="list-style-type: none"> 留学生や県民市民の交流等により、発信性の確保は可能 	<ul style="list-style-type: none"> 長崎の海外交流の歴史的な背景と適合する 	<ul style="list-style-type: none"> 周辺の交流機能の集約について検討が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 検討懇話会:海外観光客との交流機能、NPO団体やボランティア等の活動を支える機能
	さるくステーション・観光情報機能	<ul style="list-style-type: none"> まちなかのさるくの集合場所 観光をサポートするコンシェルジュ機能 	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが利用でき公益性は確保される 	<ul style="list-style-type: none"> 整備内容により可能(約2万人/年25年度出島さるくS実績) 	<ul style="list-style-type: none"> まちの魅力を内外に発信することが可能。 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の出島の案内などこの場所の持つ歴史的な背景と適合する 	<ul style="list-style-type: none"> 出島内のさるくステーションの移転の検討が必要 	<ul style="list-style-type: none"> 検討懇話会:観光をサポートするコンシェルジュ機能など

主要機能	検討中の具体的機能	主な内容	着重点（重要項目）から見た期待される効果					その他
			公益性	集客性・交流性	象徴性・発信性	歴史性	周辺にある機能との関係	
☆ホール機能	300席	・県民市民が気軽に利用できる歴史・情報発信機能に付帯した多目的なもの (演劇に一定対応可能)	・誰もが利用でき公益性は確保される ・県が中心となって活用を図るに相応しいかについては検討が必要	・利用者数は施設規模により左右される。 300席：約2.5～5.7万人(県試算) 500席：約4.6万人(県試算) 1,000～1,200席：約12.7万人(県試算)	・歴史・情報発信機能と一体となって象徴性・発信性を見込む	・歴史・情報発信機能と一体となって歴史性を見込む	・メルカつきまちホール(行政や企業の説明会での利用が多い。歴史・情報発信機能との連携や、演劇に一定対応可能なホールとすることで競合しない)	・都市再生の課題 ・県民・市民からの要望、意見など ・検討懇話会：県民が気軽に利用できる場の整備
	500席	・質の高い公演が可能な音楽専門		・土日だけでなく平日も利用が一定見込める ・県民・市民の利用が一定見込める	・創作活動を行うホールとなれば発信性をもつ ・マダムバタフライ等、この場所の歴史的背景を踏まえたプログラムを組むことで発信性は高まる	・マダムバタフライ等、この場所の歴史的背景を踏まえたプログラムを組むことで、この場所の持つ歴史的な背景と適合する	・チトセピアホール(長崎市に500席規模の音楽専門のホールはなく、競合しない) ※県内の同規模類似施設との棲み分けについては検証が必要	・検討懇話会：質が高く、芸術性の高い演劇や音楽の公演が可能なもの
	1,000～1,200席	・音楽・演劇に利用できる機能を備えたもの			・上記に加え、より規模が大きくなることで催事の幅が広がり多様なジャンルで文化を発信できる	・上記に加え、より規模が大きくなることで催事の幅が広がり、音楽以外の多様なジャンルのプログラムを提供することで、この場所の持つ歴史的な背景とより適合させることが可能。	・市民会館文化ホール(舞台面積が狭小等であるので、上質なホールとすることで競合しない) ・現在検討中のMICE施設のホール(コンベンション機能が主目的である。文化・芸術活動中心のホールとすることで競合しない)	・検討懇話会：質が高く、芸術性の高い演劇や音楽の公演が可能なもの ・あり方検討委員会：音楽・演劇のどちらか主体の中ホール(800～1200席) ・舞踊協会：1,300席程度等
	その他(練習室、リハ室兼小ホールなど)		・誰もが利用でき公益性は確保される	・土日だけでなく平日も利用が一定見込める ・県民・市民の利用が一定見込める ・整備内容やの機能と連動することにより高まる	・創作活動を行うホールなどとなれば発信性をもつ ・整備内容や他の機能と連動することにより高まる	・整備内容や他の機能と連動することにより高まる	・あり方検討委員会・音楽連盟からは不足するとの意見がある。	・あり方検討委員会・音楽連盟：小ホールの併設、練習室の充実など
★附帯施設	駐車場(自家用車)		・公益性は確保される	・集客・交流に必要な機能			・周辺施設で充足している	・附置義務上の整備は必須
	駐車場(バス)		・公益性は確保される	・集客・交流に必要な機能(観光客)			・周辺で不足している	・都市再生：新たな観光バス乗降場や駐車場の確保
	バスベイ		・公益性は確保される	・集客・交流に必要な機能(観光客)			・周辺で不足している	・都市再生：新たな観光バス乗降場や駐車場の確保
	その他(飲食・物販・展望)		・誰もが利用でき公益性は確保される	・集客・交流に必要な機能(観光客)	・施設内容による	・施設内容による	・飲食・物販は近隣との調整が必要	

※検討懇話会…県庁舎跡地活用検討懇話会。H26.3提言書提出

※あり方検討委員会…公会堂等文化施設あり方検討委員会。H24.3報告書提出。

※舞踊協会…長崎舞踊協会。H25.6市長陳情

【提言における着眼点関係部分の抜粋】

◎活用案を評価する際の着眼点における“すべての項目において一定程度満足することが原則とされる重要項目”に関する主要機能候補の評価

	多目的広場機能	歴史・情報発信機能	ホール機能	全体を通じての評価
1 公益性	誰もが利用でき、公益性は確保されている。			—
2 集客性 交流性	県民市民の利用が一定見込める。ただし、自然な賑わいを生むには時間が必要。	出島、世界遺産候補の紹介等により、観光客の利用が一定見込まれる。付加機能によっては、交流の創出も可能。	集客性は運営に依存する部分も大きい。一定の集客は見込める。	多目的広場機能は、憩い・賑わい・交流の場として県民市民の利用が一定見込める。また、歴史発信機能により観光客の誘客を図るとともに、芸術ホール機能により、文化交流の創出を狙う。
3 象徴性 発信性	格式のある質の高い広場にするなど、象徴性を持たせることは可能。	この土地の歴史に関連したものであれば象徴性のあるものとなる。世界遺産候補の紹介機能が加われば、さらに象徴性が高まる。	創作活動を行うホールとなれば発信性を持つ。	歴史発信機能において、この地を象徴する出島・世界遺産候補等を取扱うことで象徴性・発信性が高まり、また、芸術ホール機能での創作活動によって、長崎の文化を創造・発信することが可能。
4 歴史性	石垣の顕在化や遺構の展示により、歴史性を持たせることは可能。	この土地の歴史に関する資料の展示により長崎の歴史を感じることができる。	ソフト面の工夫により歴史性を持たせることは可能。	跡地における石垣顕在化・遺構展示や、歴史発信機能における、この土地の歴史に関する資料の取扱いにより、歴史性を発現させる。
5 周辺にある機能との関係	浜町を含むエリアに重複するものはなく、機能分担は可能。	出島・世界遺産候補を中心にこの土地の歴史をテーマとすることで歴史文化博物館との機能分担は可能。	周辺施設との関係に配慮が必要であるが、上質で専門的なホールとすることで、既存の市内ホールとの機能分担は可能。	—

活用案を評価する際の着眼点

必要な用途・機能の検討

重要項目 (すべての項目において一定程度満足することが原則)	
1 公益性	・県民共有の財産として誰もが利用できるものか ・特定の者に利益や不利益を及ぼすものでないか ・県が中心となって活用を図るに相応しいか
2 集客性・交流性	・居住者だけでなく来訪者を含めて、人が行き来し、集い、交流する場であるか(土日だけでなく平日も、観光客だけでなく市民も集まるか)
3 象徴性・発信性	・このまちの核・拠点として象徴的なものか(シンボル性があるか) ・このまちの魅力を内外に発信するものか(アピール性があるか) ・今後長きにわたり、この場所に相応しいものか
4 歴史性	・この場所の持つ歴史性(岬の教会、長崎奉行所、出島との関係、海軍伝習所など様々な歴史が積み重ねられてきた)に配慮しているか
5 周辺にある機能(予定含む)との関係	・周辺にある機能(予定含む)と重複しないか、棲み分けは可能か ・特にこの場所に求められる機能であるか ・周辺の類似機能との協調でより魅力を発揮できるか

目標項目 (満たしていれば望ましい項目)	
6 特有性	・他県にはない長崎特有のものか
7 国際性	・長崎の国際性を踏まえたものか
8 波及効果	・県内市内に対して何らかの二次的な効果をもたらすものか

実現可能性を検討

1 財源の確保	・整備費、運営費は非現実的な額ではないか
2 経済性	・費用対効果(来客数等)はどうか ・経済的に持続可能か
3 運営体制	・運営体制は実現可能で、充実したものか ・持続可能な運営体制か

具体の配置・規模などを検討 (検討の際に配慮すべき事項)

1 景観・環境への配慮	・周辺地域と景観的に調和するか ・環境にも配慮しているか
2 石垣の取扱	歴史ある石垣は残す方向で検討
3 第三別館の取扱	第三別館は保存・活用も視野に入れて検討
4 面積・地形	7m以上の高低差、広い土地でないことを認識
5 江戸町公園	江戸町公園の(跡地内での)機能確保を前提に、公園の一体的活用も検討可

